

平成 2 1 年度 実施事業	事務事業名 交通安全協会交付金
-------------------	------------------------

区分	番号	名 称
章	2	自然とともに暮らすまち
節	3	安全に安心して暮らせるまちづくり
施策	3	交通安全の推進
小分類	1	交通安全意識の高揚
主要な施策	1	交通安全に関する意識啓発の強化
事務事業番号	002	事務事業コード 23311002 事業開始年度 昭和 - 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	交通安全協会交付金
------	------	------------	-----------

部 名	市民生活部	グループ名	市民サービスG
-----	-------	-------	---------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

対象	<p style="background-color: #ffffcc; margin: 0;">(何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのかを具体的に記載ください)</p> 登別市交通安全協会
手段 (事業の内容・活動)	<p style="background-color: #ffffcc; margin: 0;">(目指す姿を実現するためにどのような手法で行うのか、事業の内容を具体的に記載ください)</p> 交通安全意識の高揚を図るため、交通安全教育や全市的な交通安全運動を実施している同協会に対して交付金を支出し、その活動を支援する。
目指す姿 (成果)	<p style="background-color: #ffffcc; margin: 0;">(事務事業を実施することでどのような状態にしたいのか具体的に記載ください)</p> 登別市交通安全協会の効果的な交通安全啓発活動を支援することにより、市民の交通安全意識の高揚が図られ、市民一人ひとりが安全で快適な市民生活を得ることができる。
根拠法令等	<p style="background-color: #ffffcc; margin: 0;">(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載ください)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全対策基本法 ・北海道交通安全基本条例 ・登別市交通安全条例

指標の推移

区 分		単位	区分	21年度 実績	22年度 目標	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標
成果 指標	市内の交通死亡事故件数	件	目標値	0	0	0	0	0
			実績値	4				
	市内の人身交通事故件数	件	目標値	0	0	0	0	0
			実績値	193				

事業費の推移

区 分			単位	21年度 決算	22年度 当初予算	23年度 見込	24年度 見込	25年度 見込	23～25年度 合計
事業 の 財 源 内 訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円	4,300	4,300	4,300	4,300	4,300	12,900
合 計				4,300	4,300	4,300	4,300	4,300	12,900
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	17	17			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		17	17			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 市民を交通災害から守り交通安全協会の円滑な運営と健全な発展を図るため、市が協会を支援することは妥当である。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 市民の安全を守るため幼児から高齢者までの交通安全教育・啓発などを実施し、運転者及び歩行者に対する交通安全意識をより浸透させ、市内の交通事故発生件数、死亡事故件数が前年と比較し減少している。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 市民の生命の安全を守るため、交通ルールの遵守や交通マナーの向上等の啓発活動を市と一体となり実施し、市内の事故発生件数や死者数及び負傷者数を現在よりも減少させることが必要である。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 啓発活動は、市、交通安全協会及び交通安全指導員により実施しており、人件費の削減は困難。 また、啓発用看板設置やカーブミラー調整についても可能な限り自前により対応している状況であり削減することは難しい。

担当グループによる評価

維持	<p>左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）</p> <p>交通事故防止は、交通環境の整備や警察の取り締まりによるものだけではなく、市民一人ひとりが交通ルールを遵守し、交通マナーを向上させることが重要である。市と一体となり実践してきた交通安全啓発や各種街頭啓発が浸透をみせ、市内の人身交通事故件数などは前年より減少しているため、支援し啓発活動を実施することが最も効果的である。</p>
----	---

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維持	備考
----	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力で推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）